

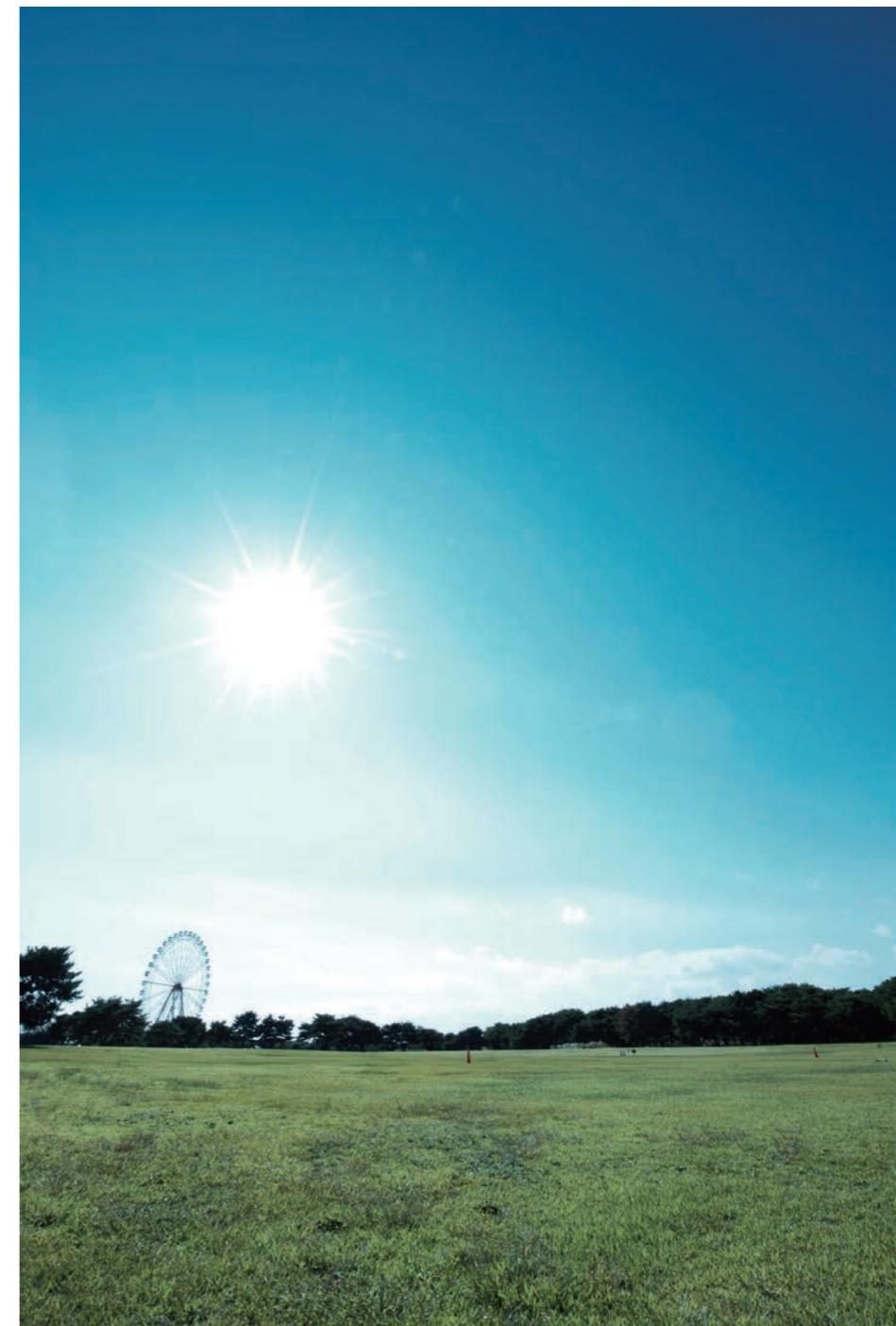
LIVE POWER

LIVE, EVENT, SUPPORT
AND COORDINATE
STAFF



www.livepower.co.jp

感動を届けるために
喜んでもらうために
省略できない
たくさんのことがある



WORK' EM ALL

-KEEP FESTIVALS GOING-

数百人が汗まみれで楽しむ街のライブハウスから
数万人が集まって自由に音楽を謳歌する巨大ロック・フェスまで。
音楽を楽しむお客様、ミュージシャン、スタッフ……
ここに関わるすべての人たちの笑顔のために
ものを運び、人を案内し、誘導し、安全を守り
快適に過ごせる環境を整え、不慮の事態に備える。
音楽が鳴る場所の安全を守り、安心を作ることと全力で向き合う。
ライブの重要性が増していく現在の音楽シーンにおいて
省略できないたくさんのこととライブパワーは担っています。



LIVE POWER BACKGROUND

音楽への情熱がイベントを支え 笑顔を守り、人材を送り出す

00年頃から現在まで、日本国内における年間のコンサート・イベント・フェス等の数は増加の一途を辿っている。ライブパワーが旧来の警備会社でも人材派遣会社でもない新しい形のエンタテイメント・サポート企業としてのありかたを模索しつつ歩んできたのは、その状況の変化に対応するためである。ライブパワーの理念、方針を、小崎代表はこう説明する。

構成=兵庫慎司 写真=森リョータ



前身会社の立ち上げ、ライブパワーの誕生

僕は名古屋出身で、大学の時に地元のイベント、サンデーフォークでアルバイトしていた。卒業して一度建設会社に就職したんですが、1ヵ月半で父親が亡くなってしまった。その頃に、浜田省吾さんの渚園のライブビデオが発売になって(1988年8月20日、静岡県・弁天島海浜公園渚園に52,000人を集めて行われた野外ワンマン)。現場に入った中で一番大きいコンサートだったんですけど、そのビデオを観たら身体に電気が走って。僕は父親が歳をとてからの子だったので、親の面倒を見るのがあたりまえだと思って就職したんですが、そのふたつの出来事がきっかけになって「音楽の仕事がしたい」という自分を止められなくなってしまった。約1年準備をして念願の東京に出てきた。そこでサンデーフォークの前社長の桑原さんが、ディスクガレージの中西社長に紹介してくれて、5年お世話になるんです。最初は現場を運営する担当とアルバイトを集める担当をやっていて。もうちょっとしっかり人を集め組織を作りたいということになって、ナインテンセキュリティという会社を立ち上げました。これがライブパワーの前身で、僕は半年間その会社を担当して、軌道に乗ったのでディスクガレージの業務に戻った。憧れの浜田省吾などを担当していたんですけど、名古屋の頃に仲よくしていたバンドがいい感じになってきたので、こいつらなんとかしてやりたいなと思って、ソニーのスタッフにプレゼントをかけていたんですね。で、そのバンドがデビューする時に、「おまえも来い」という話になって、マネージャーとしてソニー・ミュージックアーティstsに転職するんです。

その5年後に、ナインテンセキュリティを新しい形にするということで、ライブパワーが立ち上がった。さらにその5年後に誘われて入社したんですけど、当時は社員は10人ちょっと。まだ警備の免許もない状態でした。

ライブパワーは音楽の会社

入社してまず直面した問題は、なかなかアルバイトを集められないということでした。どうやって集めていたかというと、ひとりずつ電話している。それじゃ集まらない?というので、最初にロッキング・オン・ジャパン誌に広告を打った。その後に求人誌に広告を打つと、やっぱりみんな知ってる会社に行くじゃないですか。スポーツが好きな人だったら、スポーツ系の現場の多い会社に行くだろう。っていう中で、日本のロックの仕事をしたいならライブパワーかな、と思って

もらおう。要は「音楽を好きな奴らでイベントを支えていこう」っていうアプローチをかけた。それを他社は言っていたんですね。なぜか? そうですね……まあ、そこでわざわざ音楽だ音楽だって言うか言わないかの違いって、代表が音楽バカか、音楽バカじゃないかの違いだけだと思います(笑)。

音楽業界への就職をサポート

「あのアルバイトの子、いいんだけど紹介してくれない?」とか、お声がかかることってあるんですね。僕も昔、そうやって拾ってもらったひとりだし。それをもっとちゃんとしたシステムにしようと思って、社内に開発課を作りました。「LPスクール」でアルバイトに入る時の基本的なことを学んでもらって、その後「講習」「実習」も受けられる、というふうにして。

その結果、今はあちこちに元ライブパワーのOBがいる。そうすると、今度はその子たちがライブパワーのクライアントになってくれる。そういう前例が増えていく。今は、ライブパワーでのアルバイトは音楽業界への就職活動だという意識で入って来る子も増えていますね。フェスのプロダクション・ミーティングとかで、出演者のスタッフが集まるとき、年々知っている顔が増えているんです。それはうれしいことですよね。

僕がライブパワーに来たばかりの頃は、そういう考え方の子が少なかった。だから「ライブパワーはそういう方針なんです」と打ち出しました。それから、何年間も、何歳になってもずっとアルバイトしないでください、というふうに決めました。目標もなくずっとアルバイトしていても、その子の将来がつまんないじゃないですか。それでは成長しないし。

そういうふうにアルバイトで働いてる人が多いのは、雇用側としては都合がいい、という時代ですよね。要是非正規雇用が増えていく時代。僕は、そういう考え方には間違っていると思っているので。

ライブパワーの社員も、アルバイトから積極的に登用しました。10人ちょっとだったのが、今は52人。10人ちょっとの頃は、アルバイトチーフで仕事に慣れている子がいっぱいいた。でもアルバイトだから責任が負えないし、彼らの将来もないから、社員になってもらったり。そうすると受けられる仕事も増えるし、実際にみなさんも仕事の依頼を増やしてくださいました。そうやって現場が増えしていくと、

警備の免許がないとダメなところもあるので、現場に出る社員はみんな警備員の資格をとった。それは、同業他社はもともとやっていたことで、あたりまえのことであたりまえにやっただけなんんですけど、ただライブパワーの場合、違うのは、その警備員が音楽バカだ、ということなんですね。

名札を付ける意味

これはロッキング・オンのフェスの仕事がきっかけなんんですけど……アルバイトスタッフが失敗すると「ライブパワーだ」ってなる。みんな同じTシャツを着てるから、他の会社のスタッフなのかもしれないけど、そうなる。それでロッキング・オン社に「名札を付けさせてください」ってお願いして、アルバイトも社員も全員そうしたんです。そうすれば、お客様の言葉をいたたくのも、失敗して注意されるのも……お客様からだけじゃなくてクライアントからも、誉められるにせよクレームにせよ、直接来る。その方が話が早い。

あと、それが、音楽業界に人を送り出していきたい、というのもつながっていくんです。たとえば「あのいつも来るアルバイトさんいいよね、紹介してくれない?」「誰ですか?」「いや、名前がわからないんだよね。身長170センチぐらいで中肉中背の子なんだけれど」って(笑)。でも名札を付けるようになってから「○○くんいいよね、紹介してくれない?」っていうことになる。現場の時に名指しで指名してくる、そしてその会社が大きくなると社員として入れてもらえる、ということもある。

たかが名札ですけど、そういうきっかけになるんですよね。最初は社内でもすごい抵抗がありましたけど、今はもうなくなりました。

アーティスト・マネージメントを始めた理由

スタッフをほしいというクライアントは、マネージャーにせよなんにせよ、みんな即戦力がほしいんですよね。じゃあ皆が実地経験をできたほうがいいな、と思って、アーティストのマネージメントも始めたんです。あ、OUTRAGEはちょっと別ですけど(笑)。ほかのアーティストに関しては、その理由が大きいですね。だからライブパワークリエイティブというマネージメントの会社を作った。

ライブ会場でのグッズの販売は、以前からツアーも含めてやらせてもらっている。そうするとクライアントに提案できるようになります。自分たちもグッズを作ってるから、「こういう商品もいいですよ?」って。ライブパワーは普段すごい数の商品を扱って売っているわけです、いろんな会場で。あのバンドはあれが売れてる、このバンドはこんなグッズを作ってる、っていうデータは山のようにありますから。

で、そういうことを現場でやりとりしてると、クライアントの気持ちが……全部わかるとは言わないんですけど、少しは「ああ、みなさんこんな気持ちでやってるんだな」とわかるようになります。そうするとクライアントに一步近づけるというか、「これやっといてよ」って言われて、前だったら「はい」って答えてやるだけだったのが、なぜそれをやらなきゃいけないかがわかるようになるから、「はい、こういう感じでいいですか?」っていうひとことが言えるようになる。そこは、大きく違うことだと思います。



毎年8月上旬に茨城県ひたちなか市・国営ひたち海浜公園で開催されている国内最大級のロックフェス「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」。ライブパワーは2回目の2001年から現在まで設営・撤去・警備・案内・誘導・物販等を担当している。

さいたまスーパーアリーナ、開場準備中のひとコマ。場内整理・案内・誘導等を担当するアルバイトスタッフに、図面を使って会場内のオペレーションを説明し、それぞれの役割を伝えていく。



会社を増やしていくのはなぜか

2014年にサウンドキューブっていう会社を作ったんです。ライブパワーは長髪、金髪、ピアスNGなんですが、サウンドキューブはそうではない会社です。アルバイトが足りなくて協力会社に依頼する時って、働き手のクオリティも安定しないし、お金もすごくかかるんですね。それから、仕事以前にその協力会社が、我々と志が食い違うことがあって。そういう会社にお金を払ってちゃダメだな、だったらライブパワーのルールじゃない会社をひとつ作ればいい、ということで。

奇しくも、取引先の大手人材派遣会社の部長だった人が、うちで働きたいって言うから、一緒にやることにして。彼はちょっと変わった人で、現場でアルバイトさんと一緒に機材の搬入出をしてたんですよ、ヘルメットかぶって。ほかの人材派遣の会社の人はそんなこと絶対やらない。「変わった人だなあ」と思ってたんです(笑)。

それから僕、自分は社員は30人ぐらいしか面倒みれないと思ってるんです。小さい会社でも働いたし、大きな会社でも働いたけど、自分が目が届くのは30人がせいいっぱいだな、と。顔と名前とその社員が何をやっているかを、僕が把握していないのはよくない。で、後輩も、いつまでも僕の部下だとおもしろくないだろうし。

ということもあり、実際に必要でもあったから、2009年にライブパワーIKBという会社を池袋に作ったし、その営業所を横浜と横浜アリーナ前にも作った。その代表をそれぞれがやっていくことによって……極論、独立したいと思うならすればいいじゃん、と思ってるんです。その会社を背負えるべき人が育ったから会社を作れている、ということもありますから。

アルバイトスタッフに期待することは

アルバイトとして考えると、ライブパワーの仕事は、決してラクではないと思います。それでもやりたいっていう人が来ているわけですが……なんでその学歴でうちみたいな会社でアルバイトしててのか、さっぱりわからない、って思う子もいますよ。事実、塾で教える学生もアルバイトしていたりしますから(笑)。だから、好きじゃなきゃやらないでしょうね。時給は絶対に塾のほうがいいんだから。

アルバイトとして来てほしいのは……「自分の将来はこうかな」っていうビジョンを持っている人ですね。ここで働いていちばん勉強になることは、将来、上司になった時に役に立つこと。アルバイトなのに部下がいるシチュエーションになりやすいので。就職したら、上にあがっていくけばあがっていくほど部下を持たざるを得ない。そういう時に「おまえらこれをやっとけ」みたいな人だと、部下は動かないですよね。ましてやアルバイト同士で「これをやっとけ」って言ったって動くわけがない。「ちょっとこれをやってもらっていい?」っていう言い方のできる子がチーフになっていくし、将来的にも会社の中でリーダーになっていくんだと思います。

バンドをやってる子もいますけど……ロッキング・オン・ジャパンに広告を打った効果も大きくて、今は元お客様が多いです、フェスとかの。だから、お客様が喜んでる顔を見るのが好き、っていう人が多いです。その逆に、「係員の態度がなってねえから、俺が入ってなんとかする」っていう人もいます(笑)。

次にこうなればいいなと思うのは、ライブパワーでアルバイトしていくバンドをやっている人、そのバンドが階段を上がっていって、一緒にバイトしていた人がそのバンドのスタッフになって、一緒に階段を上がっていってほしい。そして、ROCK IN JAPAN FES.のGRASS STAGEに立ってほしい。今、登録しているアルバイト、1万5千人いるんですけど、その1万5千人にそのことが伝わるのが理想です。大きなアーティストって、うちのアルバイトなんて口もきけないような存在じゃないですか。でも、今僕が言ったことが実現して、そのライブパワー出身のアーティストがみんなが集まるところにフラッと来て、「ありがとう」って言つてくれたら最高ですね。

小崎滋之（こざき・しげゆき）

株式会社ライブパワー代表取締役社長
株式会社ライブパワークリエイティブ代表取締役社長
1966年生まれ、名古屋市出身。大学時代に名古屋のイベント、サンデーフォークでアルバイトを経験。
1990年に株式会社ディスクガレージに入社。ライブパワーの前身会社、ナインテンセキュリティの立ち上げに携わり、浜田省吾等のコンサートを担当。1995年にソニー・ミュージックアーティリストに転職。甲斐バンド等のマネージャーを担当。2005年ライブパワー代表取締役に就任。





LIVE, EVENT, FESTIVAL

ライブ、イベント、フェスティバルの運営において重要なさまざまなことを担い
お客様が安心して音楽を楽しめる空間を作ります

機材やステージセットの搬入・搬出、会場の警備、お客様の案内、入退場時や混雑時の誘導、グッズ販売——

いずれも、ライブ、イベント、フェスティバルにおける「音楽以外の要素」ですが、お客様にとって楽しい時間だったか否かを左右するばかりでなく、現場の安全を守り、スムーズに終了を迎えるために不可欠な、とても重要な業務です。高いクオリティでそれを遂行し、音楽の幸せを担保することが、ライブパワーの存在意義です。野外・屋内のフェスティバル、スタジアムやアリーナの現場で培ってきた、数万人規模の巨大イベントのオペ

レーション。関東圏の多数の現場で積み重ねてきた、ライブハウスでの運営。2000年の創業以降、日本の音楽シーンの中心がCDからライブに移っていく15年間で血肉化してきた知識と技術と実行力で、ミュージシャンもお客様もすばらしいライブを楽しめる空間をクリエイトしていく。

ここまで数多くの現場で鍛えられてきた会社はライブパワーしかいません。そして、いずれの業務も音楽に特化して行っている会社も、やはり、ライブパワーしかいません。



ライブに必要なシステムをすべて作る ステージ設営・撤去、グッズ販売、ケータリング

ライブハウスやホールのようなステージ常設の会場から、何もない野外に一からセットを組み立てていくフェスティバルまで、大小様々な場所にステージ、照明、音響、客席などの準備を行う設営・撤去。検品、数やサイズの把握、販売からお金の管理まで担当し、アーティストのツアーにも同行するグッズ販売。アーティストやスタッフ、アルバイトの食べ物や飲み物を必要な数、必要な時間、必要な場所に用意するケータリング。いずれもイベントを潤滑に運営するための生命線、それを担うのがライブパワー

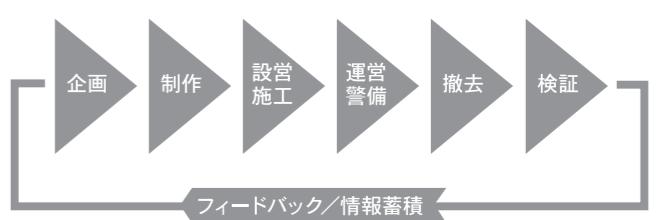
です。数々の現場で積み上げてきた経験をもとに、よりスムーズなオペレーションを実現するために、一回ごとに改善を重ねています。また、グッズに関しては、社内のマネージメント部門で制作も行っていることもあります。制作のアドバイス等を行うこともあります。また、ステージへの楽器の搬入出、クローケなど、他にもさまざまな業務を担当。スタッフのために働く場所でも、お客様と直接向き合う場所でも、ベストなコミュニケーションと行き届いたサービスを目指しています。



客席からバックステージまで 円滑に安全に運営

警備、案内、誘導、救護、運営本部、車両案内

客席エリアもバックステージも含めて、会場内を安全に保つ警備。お客様の座席・場内案内から非常時の避難経路の確保、混雑時や入退場時の誘導。体調を崩されたお客様のための救護。フェスなど規模の大きな現場では特に重要な、集まった情報を各スタッフへ速やかに伝達し、全体の業務を把握しコントロールする運営本部業務。アーティスト、スタッフや機材を乗せた車両の入退場をスムーズに行う車両案内。いずれも、ライブ、イベント、フェスティバルを、安全に、スムーズに行うために必要不可欠な業務です。警備に関しては、警備に必要な免許を取得したスタッフの指揮のもと、配置基準に基づき、適材適所にスタッフを配置して行っています。基本的な場内案内はもちろん、お客様の動きが生命線になる巨大フェスにおける誘導のオペレーションを速やかに安全に行うための方法も得てています。

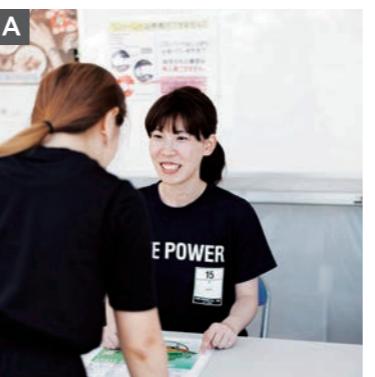




ROLE OF LIVE POWER

自由と安全と安心のために——
フェスティバル、アリーナ規模の
コンサートにおけるライブパワーの役割

会社設立とほぼ同時に広まり始めたロックフェスティバルブーム
関東圏でも数多くの大規模な屋外フェスが行われるようになり
同時にアリーナ等大会場でのコンサートも増加していく——
加速する時代と共に歩み、進化してきたライブパワー。
15年の経験を糧に、現在はそれぞれの業務をどのように行っているのか
その一部をご紹介します。



インフォメーションブース／会場内の案内をするため、お客様からのあらゆるご質問に答えられる準備が不可欠です。



グッズ販売／丁寧な接客を心がけながら、迅速な販売を第一に実現するため、的確な商品管理、お釣りの間違いを防ぐマニュアルを作り上げています。



会場内の案内／動線案内、ステージの進行状況、どの通路が混雑しているどこが空いているなど臨機応変なアナウンスでお客様を誘導します。



セキュリティ／バックステージ・関係者エリアなど、特別な通行ルートは警備資格を持ったスタッフが的確なマナーで管理します。



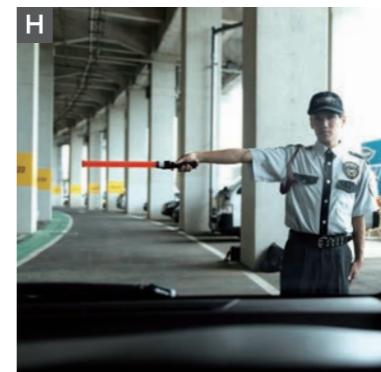
ケータリング／出演者、スタッフゾーンでの飲食物などを用意します。イベントによってはスタッフ・アルバイトなど数千人分のケアを行う場合もあります。



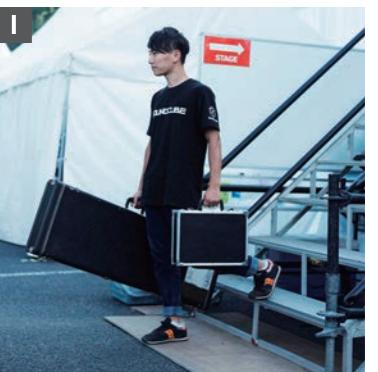
運営本部／関係スタッフ数が莫大になる大型フェスや大規模なコンサートにおいて重要な情報共有・指示系統は全てここに集約され発信されます。



救護／気分の悪くなったお客様の休憩、軽い手当から場合によっては救急車の手配まで。大型フェスでは医師が常駐しています。



車両案内／出演アーティスト、スタッフから各種機材車までフェスに関わるあらゆる車の流れを管理します。



搬出入／楽器類、ステージセット、照明、音響などの機材を搬入し組み上げるところから、解体して撤収するまでの業務をサポートします。

入場、グッズ、移動、救護——すべてにライブパワーが関わっています

フェスティバルの主役は参加者であるお客様であり、そこに不可欠なのは出演アーティストであり、そもそもフェスを企画制作する会社、主催する会社が acestこそ成り立つものですが、それを安全かつスマートに運営していくための大きな役割をライブパワーは担つております。お客様に幸せな気持ちで帰路についていたくために、何が必要か——ライブパワーは常にそれに向き合い続けています。

たとえば、チケットを渡して入場する荷物をクローケに預ける。グッズを買う。案内にしたがって場内を移動する。わからないことがあつたら救護受付に行く——フェスティバルや大会場でのコンサートのお客様の動きですが、それらのすべてにライブパワーが関わっています。たとえば、クルマで会場に到着し、誘導に従つて駐車する。そこから案内されて楽屋に到着する。食事を摂る。それぞれのステージまで導かれる——これはフェスの出演アーティストとそのスタッフの動きですが、それらにもすべてライブパワーが携わっています。また、ステージの機材の搬入出を行ふ、運営本部に情報を集約してそれを各スタッフたちに知らせ、共有するといった、フェスを作る側にとって重要なさまざまなポイントにも、ライブパワーのスタッフがいます。



LP NETWORK CROSS TALK

もっとも重要なのは、
コンサートがなくならないように守ること

コンサート、フェス、イベント等の
警備・設営・運営に携わる人材を現場に派遣する——
主軸な業務を簡単に表すとそういうことになるが
00年代以降、それらが増加・拡大の一途に対応するべく
企業体として大きく変化して現在に至るライブパワー。
その時その時の問題にいかに向き合ってきたか
そして今どのように考え方行動しているか
幹部社員4人に話してもらった。

構成=兵庫慎司 写真=森リョータ



ポリシーは「音楽業界をサポートしたい」

宮本 ライブパワーが今の体制になって、小崎が社長になった時に、「このままでは音楽業界は危険だ。なんとかしなきゃ」という構想を持ったことが、それまでの同業他社にはなかったところだと思うんです。私が以前勤務していた会社も含めて、ここまで音楽業界を中心にして仕事をしている会社って、同業他社ではなかったと思う。それは今でもそうです。「我々は警備会社だから」「我々は人材派遣会社だから」という会社が多い中で……我々もそういう免許は持っているけれど、「音楽業界を助ける会社なんだ」というポリシーを軸に動いているというのが、ライブパワーの新しい考え方だったんだ、と思います。

それで、まず働く人の体質の改善から始めました。「長いことアルバイトしているのはよくない、アルバイトだと責任がとれないから」という考え方をもとに、どんどん社員にしていった。ちょうど当時、非正規雇用の派遣切りの問題が出てきた頃だったので、その真逆を行っていた感じでしたね。CDが売れなくなってしまった頃でした。

清野 当時、私は人材アウトソーシング会社にいたんですけども、派遣バブルと言っていた頃で、本当に人の取り合い状態で。そういう状況だから、中身が薄いまま、システム頼りで人だけを提供していく。だから現場で仕事にこめる気持ちはどんどんなくなっていく、でも発注は増える一方で。そういう中でライブパワーの仕事も増えてきたんですけど、仕事への取り組みが、他のクライアントとは全然違うということを感じて。それで現場に行ってみて、やはり全然志が違うんだな、ということを感じました。それが、自分が今ここにいることに

「ライブが増えていく時代」への対応

宮本 我々が考えていることに、ようやく実情が追いつき始めたのは、2010年、会社の10周年の頃からです。就業規則であるとか雇用形態であるとかのシステムを作っていて。ライブパワーだけじゃなくて、同業他社も含めて、それではまだ旧態依然とした方法で間に合っていたんですね。コンサートの規模も、日本武道館が頂点で、東京ドームは年1回あるかないかぐらいで。

今のような、平日も含めて毎日のようにコンサートがあるような状況ではなかったし、フェスも今のように多くはなかったので。

でも、それから劇的にコンサートが増えていった。そうやって世の中が変わっていく時に、我々警備会社はその準備ができていなかったし、対応しきれていないかった。コンサートが増えたから「どうしよう!」って慌てて対応していく、それがずっと続いている、という日々で。

それで人が足りなくなってしまって、清野のいた人材アウトソーシング会社とかにお願いする。そうすると人はたくさん提供してもらえるけど、現場に慣れているライブパワーのアルバイト10人の下に、慣れていないアルバイトが100人つく、みたいなことになる。当然問題も起こるし、これではダメだって気がついて、その改善に手をつけていたのが当時でした。

ライブパワーのアルバイトも増えていくわけだから、経験の少ない人達が増える。それで育成部門を作って、「LPスクール」で基本的なことを教えるようにしたり。さらに、音楽業界に人を送り出していくように、その次に「講習」「実習」のコースも作って。

吉澤 普段のライブでも、フェスでも、いろんなバンドさんが来られる現場だと、そのスタッフが元ライブパワーということは多いですね。「同窓会か?」みたいな(笑)。

宮本 ここ5~6年でそなりましたね。たぶん同業他社でも、アルバイトの出身でそこから音楽業界に就職していく、ということは、以前からあったと思うんですけど、わざわざ「○○の出身です」と言ふことは控えていたようなんですね。それを言うのがライブパワーなんだね、ってよく言われます。「優秀な人材は自分のところで聞いておきたいという意識が働くはずなのに、声がかかったらどんどん送り出していくというのは新しいよね」というようなことを。

吉澤 アルバイトもいろいろですからね。コンサートの運営側に興味がある人もいれば、マネジメントに興味がある人もいれば、グッズに興味がある人もいれば、バンドマンになりたい人もいれば。

宮本 それを自分で見極めてもらう期間が、ライブパワーでアルバイトをする期間になればいいと思っていますね。

安全と楽しさを担保するために必要なもの

小崎 コンサートが増えすぎて対応しきれていない、という現状は、今も続いているんですね。そこで、「自分たちの手には負えないから他は知りません、自分たちの受けられる量だけやっていきます」というなら、今までいいんですけど、対応しきれていないという現状は同業他社もみんなそうだし、業界全体がそうなんですね。

そうするとコンサートやイベントの安全性が保てなくなる。どこかで事故が起きる危険性が上がる。だからいかに音楽業界に「このままではまずいですよ」という声を発するか、その声にいかにみなさん耳を傾けてもらうか、ということをしていかなければいけない。それは継続的にやっているつもりなんですが……。

宮本 このままだと安全を担保できないし、お客様も入らなくなってしまいますよ、ということですね。適当な仕切りで、適当なスタッフでやっていると、現場で事故が起って、もうコンサートには貸さない、ということになってしまふ危険性も上がる。それがいちばん怖いことですから。

それに、何千人もアルバイトを発注されても、ただ人を集めればいいわけではない。単純作業じゃなくて、「あの係員、態度悪い」と言われてしまう仕事ですから。そうすると、現場に行く前の教育がすごく大事になってくるし。

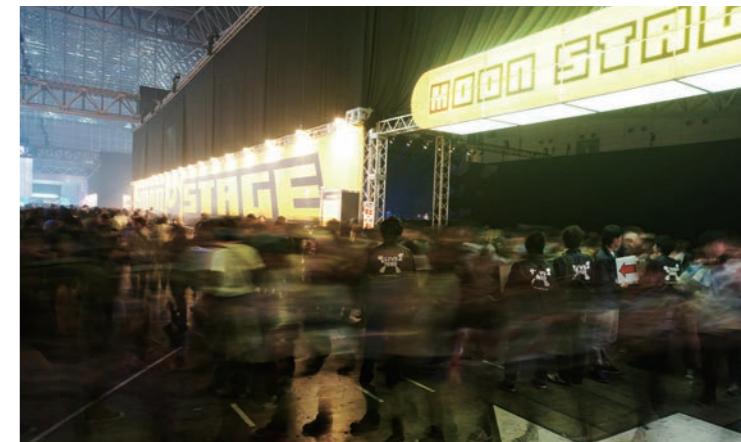
清野 そのへんは、僕が人材アウトソーシング会社をやめた理由もあるんですが。一度も会ったことがない、名前と登録IDしか知らない人を、パソコン上で操作してお客様のところに送り出す。どんな人が知らないで行かせているんだから、それはクレームも来ますよね。それが当時の人材アウトソーシング会社で……。最近は派遣法の改正もあって、働く側と会社がもっと密接になってきてるようですけれども。だから、アルバイトたちの顔を見ながら手間をかけて教育して、現場に送り出していくことが、ライブパワーのキラーコンテンツだと思っています。

それから、先ほど話に出た、音楽業界に送り出していくというのも、いわゆる人材を提供する会社とは全然違うと思います。音楽というキーワードがあつて、そこに対してみんなどう考えて、どう取り組んでいくか、ということを実行しているのが、外の畠から見てすごく魅力的に思えた。だからライブパワーに転職してきたんですね。

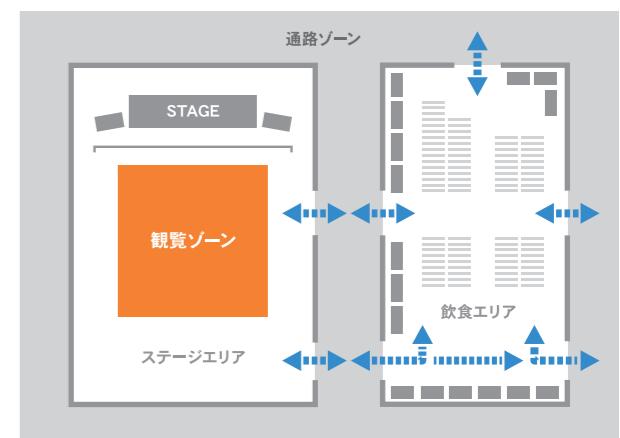
宮本 クレームゼロあたりまえなわけじゃないですか。お客様はお金を払ってコンサートに来るわけですから。そこに対して、まったく現場を経験したこともない、何も知らない人を行かせなきゃならない、ってなると、僕たちは非常にづらいですよね。だからスクールもやっているし、最低限の知識をつけてから現場に派出してあげたいし。で、経験とスキルがついてペテランになると、ライブパワーからいなくなるわけすれども(笑)。ただ、そこでライブパワーが好きだったら、ライブパワーの社員になってくれることもあるわけですから。

「雑踏警備」の重要性

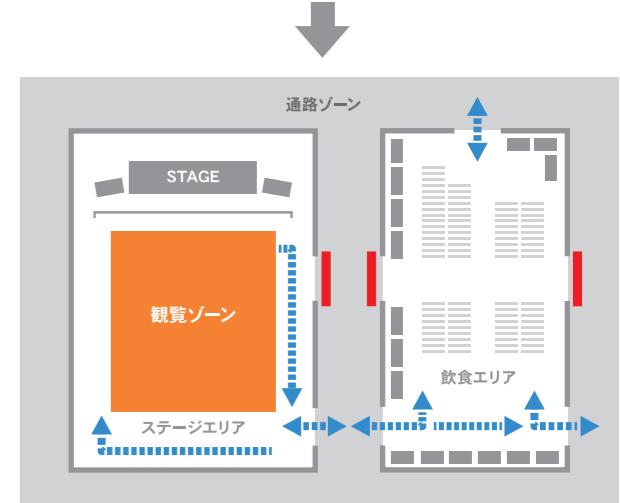
宮本 たとえばフェスで、入場者が何万人で、その会場の中でこの時間にはこの場所に何万人の何人が集まるから、こういう動線を作つてこんなふうに誘導する、混乱が起きないようにスムーズな人の流れを作る、ということを、ノウハウとテクニックを使ってやっているじゃないですか。僕たちは、そういう形のないものを形にすることが得意な警備会社なんです、ということを知らせていかないといけないと思っています。そういうことをちゃんとやっていれば、その分、事故が起きる危険性は下がるので。



複数のステージで同時にライブが進み、観客は自當ての会場を行き来する、その多くが「オールスタンディング」となるロック・フェスでは適切な誘導が不可欠。ライブパワーでは混雑状況に応じた独自の導線シフトチェンジにより、スムーズかつ安全な人の流れを作り、可能な限り入り場規制をかけず、一人でも多くの参加者にライブを楽しんでいただけることを目指している。



(例 A) 通常時は全ての出入口を開放され、前方後方に限らずエリア間を行き来しやすい。



(例 B) 緊急時は前方出入口を開鎖、後方出入口のみに導線をシフトチェンジ。入退場の流れが後方に集中することで入りの衝突を回避出来ます。混雑した状況でも観覧ゾーンでは快適安全にライブをお楽しみいただけます。

世の中全体に、音楽に限らず、幕張メッセとか東京ドームとかで、何万人も集まるようなイベントが増えていますよね。でも、それに対する警備や運営やインフラって、まだ追いついていないと思うんです。そういう現場で重要な雑踏警備や行列整備って……フェスの動線もですけど、まだその大事さが認識されていないと思うんです。たとえば施設警備だったら制服を着て出入口のところにいます、交通誘導だったらクルマを安全に通らせます、っていうふうにわかりやすいんですけど、雑踏警備はわかりづらいですから。

小崎 ただ、たとえば……音楽以外のイベントとかで、集まつた人の多さに対応できなくて大変だったとか、中止になってしまった、というようなニュースがありますよね。その時に、「そういうのはライブパワーにまかせとけばいいんだよ」とツイートしていた人がいて(笑)。それは我々にとっては誇りですよね。予期せぬことが起きる状況で、何万人というお客様を相手に安全を守る、その場をスムーズに進めることができる会社がライブパワーだ、というイメージを持ってくれている方もいるのは、うれしいことですね。

宮本 ライブパワーは警備会社ですけれども、警備員・警備会社っていうのは、警察と違って法的な強制力は一切ないわけです。警察は「止まれ」と言えるけど、我々は「止まってください」と協力を願いすることしかできない。一般の人となんら変わらない権限しか持っていない、でもひとつ失敗すると「事故を起こした」となって社会的責任を問われる。だから、ことさら慎重に現場に向かわなくてはいけないし、教育をしっかりとしなきゃいけない。そういう大きな責任を我々は持っているんだということを、常に意識していますね。事故で人が亡くなることも起き得るわけですから。

会社としての将来のビジョン

吉澤 社内としては、規則やインフラなど、一般企業であたりまえなことを、もっとやらなければいけないと思っていて、働いてくれる人たちすべてが幸せな会社であるべきなので、それを目標にしています。

宮本 コンサートがなくならないように守るべきなのが、僕らライブパワーであり、コンサート警備や会場整理の業界の使命だと思うんですね。それを今までバラバラでやっていたのが、同業他社と手を組んで、不慣れな業者に事故を起こされないように、きちんとした体制作りをしたい。3年後、遅くとも5年後までには、コンサート業界というところが……主催者の団体だけじゃなくて、現場を運営する各社まで含めて一致団結して、「こういうことは危険だから改善しよう」とか、意見を出し合って現場を変えていくようなシステムを作れたらいいなと思っています。ライブパワーがその中心の存在になれるようにがんばっていきたいと思っています。

清野 人材っていう部分の意味合いで言うと、将来音楽業界で働きたい人たちにどういう道筋を作つてあげられるか、それをより強固なものにしていく必要があると思っていて。今社内で行っているスクールであったり、初期教育を経ての現場での経験で、いかにその人たちが働き手として魅力的な存在になっていくか、即戦力として育てて外に出していくようになるか、というのは、まだまだできことがあると思うんです。

「将来音楽業界で働きたいのに、なんで音楽業界でアルバイトしないの?」っていうことだと思います。せっかく音楽業界で働くチャンスがあるんだから、そこでアルバイトをして旅立つべきなさいよ、という道筋を作れるのが、ライブパワーの強みだと思っているので。

あと、ライブパワー・サウンドキューブ出身のアーティストが出てきたら嬉しいですね。前例はありますが、もっと多くなるといいですね。

吉澤清二(よしざわ・せいじ)

株式会社ライブパワー常務取締役
株式会社ライブパワー KKB代表取締役社長
1977年生まれ、東京都出身。ライブパワーの前身会社ナインテンセキュリティでのアルバイトの後、販売、営業等の仕事を経て、2003年にライブパワーに入社。

小崎滋之(こざき・しげゆき)

株式会社ライブパワー代表取締役社長
株式会社ライブパワークリエイティブ代表取締役社長

清野大介(せいの・だいすけ)

株式会社ライブパワー取締役兼管理部部長
株式会社サウンドキューブ代表取締役社長
1976年生まれ、山形県出身。大手人材アウトソーシング会社に13年間勤務後 2013年にクライアントだったライブパワーに入社。

宮本亮伸(みやもと・あきのぶ)

株式会社ライブパワー専務取締役
1971年生まれ、佐賀県出身
20歳の時に大手イベント警備会社でアルバイトを始め27歳で同社の社員となる。10年在籍したのち社外取締役として関わっていたライブパワーへ2008年に入社。



LIVE POWER NETWORK

企業体としての柔軟性を持つために、新しいことにトライするために
より機動力を高めるために
ライブパワーグループの各社を紹介します

2000年に前身会社ナインテンセキュリティから名称変更して誕生した株式会社ライブパワーは、2007年から営業所を、そして2009年から別会社を設立するようになり、現在全部で4社のグループ企業となっています。機動力を高め、血の通った企業として活動していくために、組織を大きくしすぎないようにすること、新しいリーダーを育てていくこと、そして音楽業界から求められる人材を育成していくために必要であったことが、その動機となっています。

アルバイトの確保と育成をエリア別に行うための株式会社ライブパワー IKB、アーティストのマネージメント・グッズ関連業務を行う株式会社ライブパワークリエイティブ、ライブパワーとは別のレギュレーションでアルバイトスタッフが働く株式会社サウンドキューブ。それぞれが連携し合い補完し合うことで、より働きやすい、そして、より時代に対応しやすい状態を作っています。



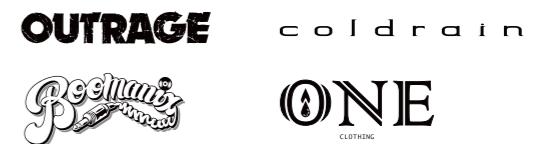
株式会社ライブパワークリエイティブ

魅力あるアーティストとの出会いと人材育成のため、マネージメントを手がけます

ライブパワークリエイティブの設立理由はふたつ。ひとつは、ライブパワーでマネージメントを行いたい魅力的なアーティストとの出会いがあったこと。そしてもうひとつは、アルバイトスタッフが音楽業界へ就職していくために、アーティスト・マネジメントの現場で、実際に携われる場が必要であると考えたことです。

現在は OUTRAGE が所属、また株式会社 GRIPとの業務提携アーティストとして coldrain、育成アーティストとして HEADLAMP

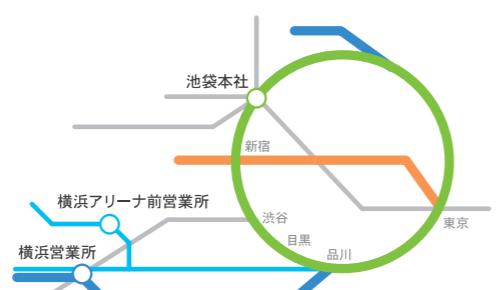
ACCESSFREE とガナリヤ、サイレントニクスに関わっています。また、多数のアーティストのグッズ販売業務を請け負いツアーに帯同する業務や、アパレルブランドの立ち上げ、グッズ企画・製作など、ライブパワーの新たなビジネスにトライしていく会社もあります。



株式会社ライブパワー IKB (池袋本社・横浜営業所・横浜アリーナ前営業所)

池袋、横浜。ライブで働く人たちの新たな拠点

関東圏で開催されているコンサートやイベントは、その場所、規模、特性によって必要とされるアルバイトスタッフの数や人材が異なります。そのニーズに応え、安定的な人材確保を実現するために、ライブパワーが作ったふたつの拠点が、ライブパワー IKBです。大学が多く、学生や若年層が集う池袋は、近郊の大型コンサート施設であるさいたまスーパーアリーナに通いやすい沿線に住むスタッフの確保に有効と判断し、ここに拠点を設立しました。さらに横浜アリーナ・日産スタジアムなどを有する横浜にも、二カ所の営業所を設け、それぞれで採用を行っています。



プライバシーマーク登録番号 第 17002512(01)号



株式会社サウンドキューブ

ステージに立ちたい人が、音楽の仕事をできる場所

より多くの才能ある人と出会いたい、ステージに立ちたい人が音楽の仕事をできる場を作りたい、という考えから「金髪・ピアス・週払いOK」「初心者、短期歓迎」というレギュレーションで2014年3月に設立したのが、サウンドキューブです。

ミュージシャンを目指すバンドマンたちが、プロの現場に触れる事のできるアルバイト先として、浸透しています。

スタッフ側、アーティスト側、両方の意味において、「音楽業界の人事部となること」が、サウンドキューブの目標です。



www.soundcube.co.jp

プライバシーマーク登録番号 第 17002565(01)号

COMPANY INFO

〈沿革〉

1992年3月 株式会社ナインテンセキュリティ設立
2000年4月 株式会社ナインテンセキュリティより株式会社ライブパワーへ名称変更
2007年11月 株式会社ライブパワー 池袋営業所開設
2009年4月 株式会社ライブパワー IKB設立(旧 株式会社ライブパワー池袋営業所)
2010年4月 株式会社ライブパワー IKB横浜営業所開設
2013年3月 株式会社ライブパワー IKB横浜アリーナ前営業所開設
2013年5月 株式会社ライブパワークリエイティブ設立
2014年3月 株式会社サウンドキュープ設立

〈会社概要〉

社名	株式会社ライブパワー(Live Power Co.,Ltd.)
代表者	小崎滋之
本社所在地	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-19-3 IMAS 目黒ビル3F
電話番号	03-5436-9100(代表)
設立	1992年3月11日
資本金	2,000万円
売上高	27億円(2014年度)
決算期	2月末日
社員数	52名(2015年4月現在)
取引銀行	三菱東京UFJ銀行目黒支店
弁護士	飯塚総合法律事務所
税理士	税理士法人スマックパートナーズ
社労士	社会保険労務士法人ゼネラル・ブレインズ
業務内容	コンサート、イベントにおける警備、会場案内、誘導、運営業務等 コンサート機材(音響機器、照明、舞台大道具)等の設営、撤去作業 グッズ販売、事務、ケータリング
認定	東京都公安委員会 認定第30003201号 労働者派遣事業許可般 13-302433 職業紹介事業許可 13-ユ-050193 プライバシーマーク登録番号 第17002157(01)号

〈公演実績〉

ROCK IN JAPAN FES.	EXILE
COUNTDOWN JAPAN	三代目J Soul Brothers
SWEET LOVE SHOWER	ファンキー加藤
SUMMER SONIC	back number
METROCK	ポルノグラフィティ
BAYCAMP	Acid Black Cherry
a-nation	ASIAN KUNG-FU GENERATION
Bowline	いきものがかり
J-WAVE LIVE	ユニコーン
NANO-MUGEN FES	MONGOL 800
SATANIC CARNIVAL	LiSA
DEAD POP FESTIVAL	VAMPS
LOUD & OUT FEST.	ゆず
まんぱく	マキシマム ザ ホルモン
Mr.Children	サカナクション
BUMP OF CHICKEN	キュウソネコカミ
矢沢永吉	ゲスの極み乙女。
RADWIMPS	KANA-BOON
MAN WITH A MISSION	WANIMA
[Alexandros]	順不同 その他多数

〈主要取引先〉

株式会社 ディスクガレージ
株式会社 ロッキング・オン・ジャパン
株式会社 スペースシャワーネットワーク
株式会社 フジテレビジョン
日本テレビ放送網株式会社
株式会社 ニッポン放送
株式会社 文化放送開発センター
株式会社 キヨードー東京
株式会社 キヨードー横浜
株式会社 クリエイティブマンプロダクション
株式会社 サンデーフォークプロモーション
株式会社 エスエフオペレーション
株式会社 夢番地
株式会社 スポーツビズ
株式会社 ソニー・ミュージックアーティスツ
株式会社 ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
株式会社 テイバーズ
株式会社 ハンズオン・エンタテイメント
株式会社 ズィーブラスミュージック
株式会社 楽
株式会社 GRIP
株式会社 ジャパンミュージックシステム
有限会社 ヴィンテージロック
エイベックス・ライブ・クリエイティブ株式会社
ライブマスターズ株式会社
甲斐オフィス株式会社
ユニバーサルミュージック合同会社

順不同 その他多数

〈ツアーミニ〉

EIKICHI YAZAWA「ROCK IN DOME」
EIKICHI YAZAWA「OPEN REHEARSAL GIG」
Z's TOUR 2015
浜田省吾「ON THE ROAD 2015」
清木場俊介「ROCK&SOUL 2015 "FACT"」
KOBUKURO LIVE TOUR 2015“奇跡”
MISIA 星空のライヴVIII MOON JOURNEY
平原綾香 CONCERT TOUR 2015～Prayer～
超新星 LIVE TOUR 2014“ALL IN ～すべてをかける～”
西野カナ 2014年全国アリーナツアー Love Collection Tour ~pink & mint~
coldrain presents BLARE DOWN BARRIERS 2015
coldrain【VENA JAPAN TOUR 2016】
OUTRAGE「GENESIS I」TOUR

※ライブ制作・運営補助・グッズ販売・チケット管理業務等

